

エラブオオコウモリの特徴

目で見ながら飛んでいる

聴覚にたよって飛行する（エコロケーション）小型のコウモリに対して、オオコウモリは視覚にたよって空を飛びます。夜でも目が見えますが、真っ暗だと飛ぶことはできません。月や星の明るい夜や人家の明かりの近くが好きで、昼飛ぶこともあります。

オス・メスの見分け方

オス：首の周りが、黄色い。
メス：首の周りが、白い。オスより少し小さい。



オス
(写真提供：船越 公威 氏)

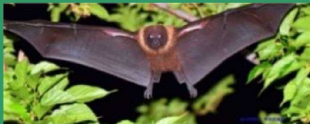


メス
(写真提供：大沢 夕志 氏 <http://fruitbat.jp/>)

翼を広げるとカラスくらい

体重：オス約550g、メス約500g
頭長：約7cm
前腕長：約14cm

翼は、腕と手足の間の皮膜。第一指にはかぎ爪があり、食べるときに枝を引き寄せたり、果実を抱え込む。



写真提供：野田 武 氏 (毎日新聞社)

何を食べる？

果実が主食ですが、葉、樹皮、花蜜、昆虫も食べます。

3~5月	<果実>リュウキュウバショウ、オオイタビ、シマグワ、ガジュマル、アコウ <花蜜>ワシントンヤシ、アキグミ <葉>マルバグミ
6~8月	<果実>ガジュマル、イヌビワ、アコウ、ヒゲモモ <葉>マルバグミ、キカラスウリ <昆虫>大型甲虫など
9~11月	<果実>ガジュマル、アコウ、オオイタビ、ハマヒサカキ、ホルトノキ、ナシカズラ
12~2月	<果実>ハマヒサカキ、オオイタビ、ナシカズラ、モクタチバナ アコウ青果、ガジュマル青果、シャシャンボ <葉や樹皮>アコウ、ガジュマル

タネは飲み込む？吐き出す？

果実を口の中でかみ砕き、果汁だけを飲み込んで、食べカスを吐き出します。果実は柔らかいものが好きで、種が小さいと飲み込みます。吐き出した食べカスを食痕（ペリット）と言います。

エラブオオコウモリをもっと知ろう

生息状況

エラブオオコウモリは、口永良部島とトカラ列島（中之島、悪石島など）に生息するオオコウモリの仲間です。口永良部島に50~100頭が生息すると推定されています。

暮らし

<夜>

日没後、ねぐらからえさ場へ移動し、果実や花蜜、葉、昆虫を食べます。

<昼>

日の出が近づくと、ねぐらである谷間の林の中（洞窟ではありません）に帰り、日が昇るころには就寝します。一頭一頭ばらばら、もしくは数頭で寝ています。ねぐらは毎日かわります。

繁殖

秋にオス・メスが巨木へ集まりペアができます。交尾は、9月中旬に始まり10~11月がピークです。出産は春で、5~6月がピークです。幼獣は8月頃(生後約3カ月)に離乳し、9~10月に母親から独立します。

寿命

野生では、5~6年くらいだといわれています。飼育下ではより長く生き、鹿児島市平川動物公園で飼育している個体は、26才です。（2020年現在）

社会

群れをつくりません。また、縄張りがありません。昼間は、ペアであっても、オス・メスは単独で睡眠・休息します。

保護の取り組み

1975年に国の天然記念物に、1991年には絶滅危惧種（IA類）に指定されています。噴火が続く口永良部島では、環境が悪化して絶滅が心配されています。ごく近い将来に絶滅する危険性が極めて高いとして、2019年に国内希少野生動物種に指定されました。



本「エラブオオコウモリ観察ガイドポケット版」は船越公威・園崎敬廣氏らの研究成果をもとにして作成しました。また、写真や図を提供していただいた、野田 武氏、大沢 夕志氏に、心よりお礼申し上げます。

発行 2021年1月

九州地方環境事務所 屋久島自然保護官事務所
〒891-4311 鹿児島県熊毛郡屋久島町安房前岳2739-343
TEL 0997-46-2992 FAX 0997-46-2977

作成 「えらぶ年寄り組」

〒891-4208 鹿児島県熊毛郡屋久島町口永良部島
Email: erabu.info@gmail.com
<http://kuchinoerabu-jima-senior.org/>

口永良部島

エラブオオコウモリ 観察ガイド

ポケット版



昼に、この観察ガイドをつかって、エラブオオコウモリが利用する木を探し、食痕を見つけましょう。食痕が見つかった木では、夜にエラブオオコウモリと出会うことができます。

観察するときの注意

大声を出さず
静かに

コウモリや食痕
には触れないで

ライトを照らす時は、長時間を避けて

観察中は、お酒やタバコはやめて

地域住民やエラブオオコウモリへの配慮をお願いします。

エラブオオコウモリを見つけよう！

エラブオオコウモリは、口永良部島の集落近くの様々な種類の木を多く利用しています。表とオオコウモリ観察マップ（図1と図2）を見ながら、木を探しましょう。

エラブオオコウモリが見やすい木には、観察案内看板がついています（表および図のアルファベット）。

オオコウモリに出会える木

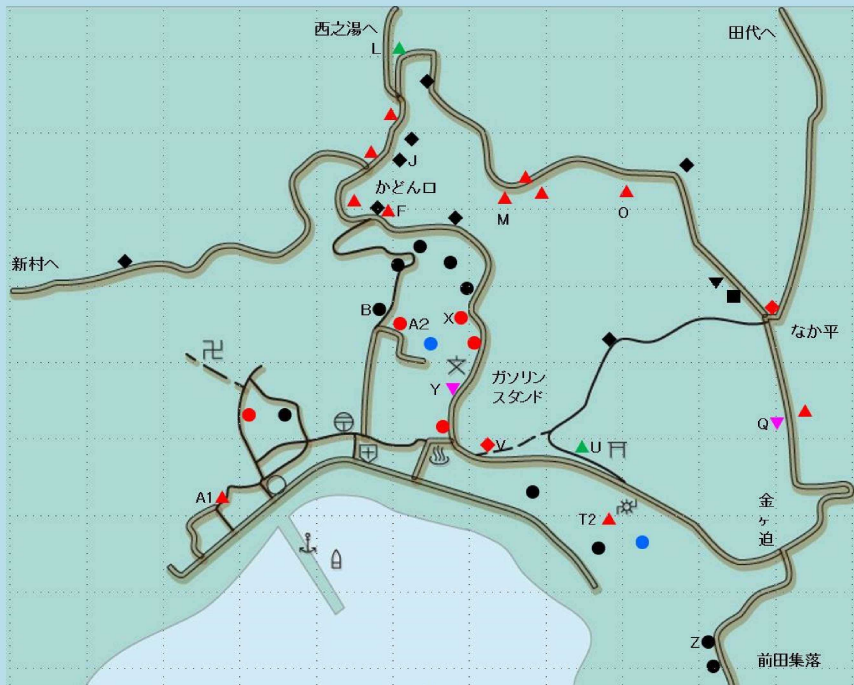


図2. オオコウモリ観察マップ（湯向地区）

図1. オオコウモリ観察マップ（本村・前田地区）

木の名前とコウモリの見ごろなどが書かれています。看板のアルファベットは、表、図1、2と連動しています。

観察案内看板



表 各地点の樹種と看板のある木

エサとなる木	地点	看板のある木
アコウ	●	A2、X、y-A*
イヌビワ	◆	J
カキ	■	
ガジュマル	●	B、Z
クワバ	▼	
シマゲワ	▲	A1、F、M、O、T2
ハマヒサカキ	◆	V
モモ	▼	Y、Q
マルバグミ	▲	L、U
ワシントンヤシ	●	

アルファベットは、看板のある木。図1と図2に連動
*は湯向地区

食べカス（食痕）を見つけよう！

道路を歩いて木の下を注意深く見ると、オオコウモリの食痕が落ちています。

風間のうちに食痕を探し、その木を覚えておきましょう。日没から30分後、タイミングが良ければそこにオオコウモリが飛来します。

オオコウモリの食痕



ヒゲモモの食痕
実（4cmくらい）の一部がかけられ、縁の皮や、種が残る。



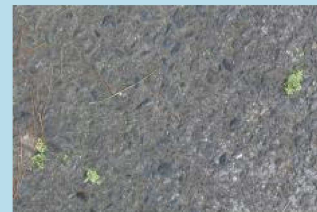
シマゲワの食痕
茶色、2cmくらい。小さな種が残る。



イヌビワの食痕と果実
くすんだ茶色、2cmくらい。



アコウの食痕
茶色、2cmくらい。小さい種が残る。



マルバグミの食痕
緑の塊（長3cm、幅2cmくらい）、葉はボロボロに。

